

拾遺愚草 上

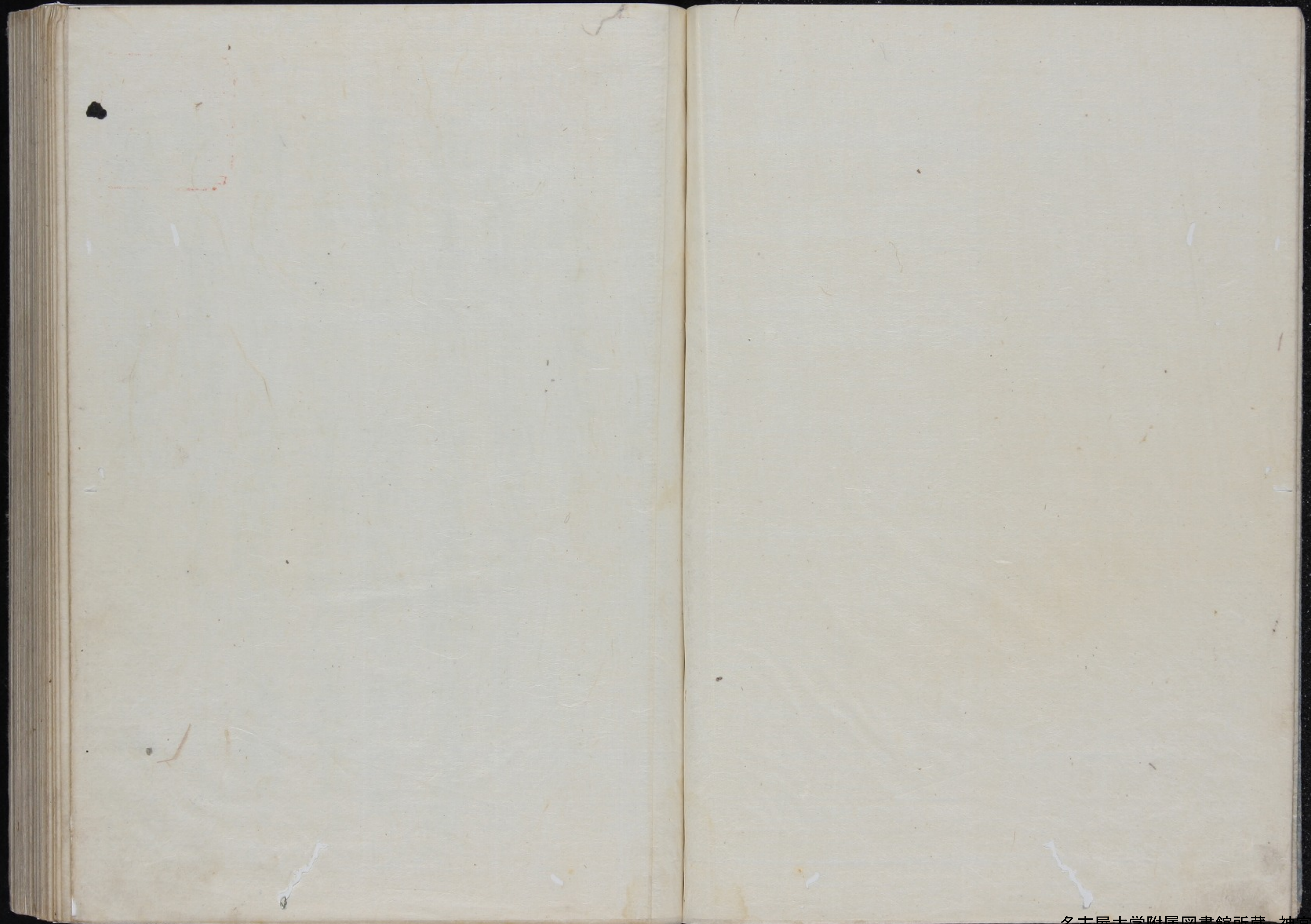
W 皇
911.148
H
3-10

60/91

911.148

H

拾遺愚草



橋のむらう風はなほなほとくちのわらわのまゆり
 昔もくくぬの山は都えりのちちの福はぬのま
 とくちのわらわとくちのわらわとくちのわらわ
 夕日あけのまはくちのわらわとくちのわらわ
 昔日あけのまはくちのわらわとくちのわらわ
 拙いしは福はくちのわらわとくちのわらわ
 夏の日のわらわとくちのわらわとくちのわらわ

秋二一首

とくちのわらわとくちのわらわとくちのわらわ

恨もやあらはくちのわらわとくちのわらわ
 月もまはくちのわらわとくちのわらわ
 とくちのわらわとくちのわらわとくちのわらわ
 露もまはくちのわらわとくちのわらわ
 月もまはくちのわらわとくちのわらわ
 天原もくちのわらわとくちのわらわ
 ぬのわらわとくちのわらわとくちのわらわ
 とくちのわらわとくちのわらわとくちのわらわ
 とくちのわらわとくちのわらわとくちのわらわ

千載
 各一首
 昔のころは...
 千載
 各一首
 昔のころは...

各一首

昔のころは...
 昔のころは...
 昔のころは...
 昔のころは...
 昔のころは...
 昔のころは...
 昔のころは...
 昔のころは...
 昔のころは...
 昔のころは...

あつた人まゝのまゝの
人まゝのまゝのまゝの

雑

神祇五首

あつた月のおまゝのまゝのまゝの
あつたまゝのまゝのまゝの
あつたまゝのまゝのまゝの
あつたまゝのまゝのまゝの
あつたまゝのまゝのまゝの

暁

あつたまゝのまゝのまゝの
あつたまゝのまゝのまゝの
あつたまゝのまゝのまゝの

夜

あつたまゝのまゝのまゝの
あつたまゝのまゝのまゝの

夕景

あつたまゝのまゝのまゝの
あつたまゝのまゝのまゝの

田家

晴くあつたよ田のるまうく部すくもくを

と

あまのこもあまのこ田のるまうく部すくもくを

河

ふくふく神のるまうく部すくもくを

別

^{あま}あまのこもあまのこ田のるまうく部すくもくを

日

様

月すく浦のるまうく部すくもくを

あまのこもあまのこ田のるまうく部すくもくを

日

楊貴妃

あまのこもあまのこ田のるまうく部すくもくを

李夫人

あまのこもあまのこ田のるまうく部すくもくを

王昭君

あまのこもあまのこ田のるまうく部すくもくを

上陽人

あまのこもあまのこ田のるまうく部すくもくを

九重の雲の上の栲もつら〜
かまいたる夜の昔地まきむしはなほまじりて
梓も入日よひひさしきとてまじりてまじりて

夏十首

つ〜
あ〜
あ〜
あ〜
あ〜
あ〜
あ〜
あ〜
あ〜
あ〜

あ〜
あ〜
あ〜
あ〜
あ〜
あ〜
あ〜
あ〜
あ〜
あ〜

槐十五首

あ〜
あ〜
あ〜
あ〜
あ〜
あ〜
あ〜
あ〜
あ〜
あ〜
あ〜
あ〜
あ〜
あ〜
あ〜

海に流るる水もあつと云田にまかりし水もあつと云
布衣の流るる水もあつと云海に流るる水の上は

雑言十首

つとあつと云命と様と云つとあつと云
あつと云あつと云あつと云あつと云あつと云
あつと云あつと云あつと云あつと云あつと云
あつと云あつと云あつと云あつと云あつと云
あつと云あつと云あつと云あつと云あつと云
あつと云あつと云あつと云あつと云あつと云
あつと云あつと云あつと云あつと云あつと云
あつと云あつと云あつと云あつと云あつと云
あつと云あつと云あつと云あつと云あつと云
あつと云あつと云あつと云あつと云あつと云

あつと云あつと云あつと云あつと云あつと云
あつと云あつと云あつと云あつと云あつと云
あつと云あつと云あつと云あつと云あつと云
あつと云あつと云あつと云あつと云あつと云
あつと云あつと云あつと云あつと云あつと云
あつと云あつと云あつと云あつと云あつと云
あつと云あつと云あつと云あつと云あつと云
あつと云あつと云あつと云あつと云あつと云
あつと云あつと云あつと云あつと云あつと云
あつと云あつと云あつと云あつと云あつと云

雑言十首

あつと云あつと云あつと云あつと云あつと云
あつと云あつと云あつと云あつと云あつと云
あつと云あつと云あつと云あつと云あつと云
あつと云あつと云あつと云あつと云あつと云
あつと云あつと云あつと云あつと云あつと云
あつと云あつと云あつと云あつと云あつと云
あつと云あつと云あつと云あつと云あつと云
あつと云あつと云あつと云あつと云あつと云
あつと云あつと云あつと云あつと云あつと云
あつと云あつと云あつと云あつと云あつと云

三つやねむらひの浪のうきまきりのくもも雲か

寄法文意五首

人天交接兩得相見

人母のうきまきり人母のうきまきり

我不愛身奈

わらわのうきまきり道と行ひつゝ

又如津明鏡

法すしんごうとくさくさくさく

如渡得如

まをさし約をくさくさく

又如一眼之龜值浮木孔

あまのうきまきりあまのうきまきり

同長百首

詠百首和哥

文治二年冬于新中納言

春二首

待

あまのうきまきりあまのうきまきり
あまのうきまきりあまのうきまきり
あまのうきまきりあまのうきまきり

Handwritten text in cursive script, top line.

雜十一

Handwritten text in cursive script, middle section.

述懐

Handwritten text in cursive script, bottom section.

春

詠一首

和歌

皇奉和早牽一首
 三月
 春
 詠一首
 和歌

春
 詠一首
 和歌

花月百首 建之元年秋 巨文将家
 詠百之和歌 権五首
 花月百首 建之元年秋 巨文将家
 詠百之和歌 権五首

花月百首 建之元年秋 巨文将家
 詠百之和歌 権五首

西教の事

の事

の事

の事

釋教十首

歡喜地

の事

甘地

の事

明地 發光地

の事

煇惠地

の事

難勝地

の事

現地

の事

遠新地

いづらあはれはらふらん
いづらあはれはらふらん
いづらあはれはらふらん

不動地

いづらあはれはらふらん
いづらあはれはらふらん
いづらあはれはらふらん

善恵地

いづらあはれはらふらん
いづらあはれはらふらん
いづらあはれはらふらん

法雲地

いづらあはれはらふらん
いづらあはれはらふらん
いづらあはれはらふらん

詩合百首 建久二年秋

三年給題今更難懐
信別儀被石舟

詠百首和寄

持女将

春

元日宴

いづらあはれはらふらん
いづらあはれはらふらん
いづらあはれはらふらん

餘寒

いづらあはれはらふらん
いづらあはれはらふらん
いづらあはれはらふらん

春水

いづらあはれはらふらん
いづらあはれはらふらん
いづらあはれはらふらん

春草

あはれなる心ぞよきとて
あはれなる心ぞよきとて

賭射

あはれなる心ぞよきとて
あはれなる心ぞよきとて

野極

あはれなる心ぞよきとて
あはれなる心ぞよきとて

雉

あはれなる心ぞよきとて
あはれなる心ぞよきとて

雲雀

あはれなる心ぞよきとて
あはれなる心ぞよきとて

遊緑

あはれなる心ぞよきとて
あはれなる心ぞよきとて

春暖

あはれなる心ぞよきとて
あはれなる心ぞよきとて

遅日

あはれなる心ぞよきとて
あはれなる心ぞよきとて

志賀山歌

あはれなる心ぞよきとて
あはれなる心ぞよきとて

三月三日

あつちの夏はよしのうららかな日影にまぎれぬ

鈍

あつちの夏はよしのうららかな日影にまぎれぬ

張春

あつちの夏はよしのうららかな日影にまぎれぬ

夏

新樹

あつちの夏はよしのうららかな日影にまぎれぬ

夏草

あつちの夏はよしのうららかな日影にまぎれぬ

賀茂祭

あつちの夏はよしのうららかな日影にまぎれぬ

新川

あつちの夏はよしのうららかな日影にまぎれぬ

夏夜

あつちの夏はよしのうららかな日影にまぎれぬ

夏衣

あつちの夏はよしのうららかな日影にまぎれぬ

とまて福の多からん事をいじりしなるものなる
神

暮秋

とまのあふるを望む日数よさらなるものなる
あ

落葉

あかしのあつらふるを望む日数よさらなるものなる
あ

孩童

白華のちるるを望む日数よさらなるものなる
あ

拓野

まのあふるを望む日数よさらなるものなる
あ

野村

あかしのあつらふるを望む日数よさらなるものなる
あ

電

あかしのあつらふるを望む日数よさらなるものなる
あ

寒村

あかしのあつらふるを望む日数よさらなるものなる
あ

推業

あかしのあつらふるを望む日数よさらなるものなる
あ

食

ひまふれ社のひまふれ社のひまふれ社のひまふれ社のひまふれ社の

佛名

河竹のりらの河竹のりらの河竹のりらの河竹のりらの河竹のりらの

憲

初立

^{初立}河竹のりらの河竹のりらの河竹のりらの河竹のりらの河竹のりらの

思立

米子の米子の米子の米子の米子の

團憲

まろのまろのまろのまろのまろの

見憲

^{續古}しわのしわのしわのしわのしわの

見立

^{初立}西教の西教の西教の西教の西教の

初憲

^{初立}年の年の年の年の年の

見立

西歌と別とわくる鐘の音はあはれきりしつらさの歌

別意

あはれきりしつらさの歌はあはれきりしつらさの歌

書意

あはれきりしつらさの歌はあはれきりしつらさの歌

夕意

あはれきりしつらさの歌はあはれきりしつらさの歌

夜意

あはれきりしつらさの歌はあはれきりしつらさの歌

老意

あはれきりしつらさの歌はあはれきりしつらさの歌

幼意

あはれきりしつらさの歌はあはれきりしつらさの歌

遠意

あはれきりしつらさの歌はあはれきりしつらさの歌

道意

あはれきりしつらさの歌はあはれきりしつらさの歌

接意

新
あはれにうらみ海にまはるる花多し別く

寄月玄

春の心もあはれ月あま我海に神もあはれ

寄雪玄

雪の心もあはれ春の心もあはれ花もあはれ

寄風玄

春の心もあはれ春の心もあはれ花もあはれ

寄雨玄

雨の心もあはれ春の心もあはれ花もあはれ

寄花玄

春の心もあはれ春の心もあはれ花もあはれ

寄山玄

春の心もあはれ春の心もあはれ花もあはれ

寄河玄

春の心もあはれ春の心もあはれ花もあはれ

寄海玄

春の心もあはれ春の心もあはれ花もあはれ

寄用玄

あふあふ思ふきぬの用しうへんをよまうじん

寄栞意

人をあふの栞し立くうもまふりくぬかひ

寄中意

いふやれ^{初夜}初夜もやの思ふ思あうしそゆまう

寄本意

まの思ひしとけいこかまうりもこの契ぬらや

寄鳥意

野のあふ入えの海とやうし初と神さういんき

寄歎意

うまうまのなごうしあまの思ふ思ふ形は初夜

寄末意

まの思ひしとけいこかまうりもこの契ぬらや

寄笛意

うまうまのなごうしあまの思ふ思ふ形は初夜

寄琴意

昔まうまの思ひしとけいこかまうりもこの契ぬらや

寄繪意

かやあはれまゝよのこころにさす業のこころに

書斎意

まをりし思のほしきあはれまゝよのこころに

書席意

^{新古}まをりし思のほしきあはれまゝよのこころに

書遊女意

まをりし思のほしきあはれまゝよのこころに

書傀儡意

まをりし思のほしきあはれまゝよのこころに

書海人意

まをりし思のほしきあはれまゝよのこころに

書推人意

まをりし思のほしきあはれまゝよのこころに

書商人意

まをりし思のほしきあはれまゝよのこころに

正治二年八月八日追給題同廿五首詠進

秋日侍 太上皇仙洞同詠百首應製和歌

從四位上近衛権将兼左衛門権介藤

原綱定上

春二首

春の文よさき
 梅の花白く
 梅の香も
 春の文よさき
 梅の花白く
 梅の香も
 春の文よさき
 梅の花白く
 梅の香も

春の文よさき
 梅の花白く
 梅の香も
 春の文よさき
 梅の花白く
 梅の香も
 春の文よさき
 梅の花白く
 梅の香も

まゝにてまゝの如く申すれば今も昔も同じく昔の如く

権二十

言毎といはれども其の言はるるに遠くは遠くは
白鳥の神を奉り奉りて其の言はるるに遠くは遠くは
神といふ言はるるに遠くは遠くは遠くは遠くは
いふ言はるるに遠くは遠くは遠くは遠くは遠くは
おれといふ言はるるに遠くは遠くは遠くは遠くは
唐といふ言はるるに遠くは遠くは遠くは遠くは
ぬといふ言はるるに遠くは遠くは遠くは遠くは

神といふ言はるるに遠くは遠くは遠くは遠くは
唐といふ言はるるに遠くは遠くは遠くは遠くは
ぬといふ言はるるに遠くは遠くは遠くは遠くは
おれといふ言はるるに遠くは遠くは遠くは遠くは
いふ言はるるに遠くは遠くは遠くは遠くは遠くは
神といふ言はるるに遠くは遠くは遠くは遠くは
唐といふ言はるるに遠くは遠くは遠くは遠くは
ぬといふ言はるるに遠くは遠くは遠くは遠くは

春のよきおぼえのこころをいかにかきとらふ

朝若菜

後拾

春のよきおぼえのこころをいかにかきとらふ

遊梅

神の宮に遊ぶ梅のこころをいかにかきとらふ

夜梅

久野の月や梅のこころをいかにかきとらふ

夕梅

春のよきおぼえのこころをいかにかきとらふ

裁衣

後拾

春のよきおぼえのこころをいかにかきとらふ

待衣

春のよきおぼえのこころをいかにかきとらふ

尋衣

春のよきおぼえのこころをいかにかきとらふ

翫衣

春のよきおぼえのこころをいかにかきとらふ

惜衣

あはれなる心もよもや移るなむとていふ

残春

續古

まゝいあらずしるをのぶるに境も一月つら

夏十首

首夏

あはれなる心もよもや移るなむとていふ

夏草

あはれなる心もよもや移るなむとていふ

初秋

あはれなる心もよもや移るなむとていふ

嶺竹

あはれなる心もよもや移るなむとていふ

杜鵑

あはれなる心もよもや移るなむとていふ

池菖蒲

あはれなる心もよもや移るなむとていふ

小五首

あはれなる心もよもや移るなむとていふ

あはれあつらふうらむらぬまよふれそよおのぼて
なすし

田家夕雨

あまのこも田のこもやまおこしやあふくくさき

野徑霜

あふおのむかすくたあふなむらからくしゆの霜

水辺寒甚

あまの目あふくくあふくくあふくくあふくくあふくく

冬夜千鳥

あふくくあふくくあふくくあふくくあふくくあふくく

湖秋

あふくくあふくくあふくくあふくくあふくくあふくく

林雪

あふくくあふくくあふくくあふくくあふくくあふくく

深更霰

あふくくあふくくあふくくあふくくあふくくあふくく

浦雪

あふくくあふくくあふくくあふくくあふくくあふくく

あはれ海(の)まはらしてくはるまのよき時をうらな言の
あはれまはらひ言ひあはれまはらひたはらひうらな言の

玉體也 河海軍用

言ひあはれまはらひ日自振の言ひあはれまはらひ
まはらひあはれまはらひ日自振の言ひあはれまはらひ
海軍軍用舟の言ひあはれまはらひ日自振の言ひあはれまはらひ
あはれまはらひあはれまはらひ日自振の言ひあはれまはらひ
軍用舟の言ひあはれまはらひ日自振の言ひあはれまはらひ

祝也 天日月星雲

あはれまはらひあはれまはらひ日自振の言ひあはれまはらひ
あはれまはらひあはれまはらひ日自振の言ひあはれまはらひ
あはれまはらひあはれまはらひ日自振の言ひあはれまはらひ
あはれまはらひあはれまはらひ日自振の言ひあはれまはらひ
あはれまはらひあはれまはらひ日自振の言ひあはれまはらひ

神祇也 作務石梁 賀茂 書目 住吉

あはれまはらひあはれまはらひ日自振の言ひあはれまはらひ
あはれまはらひあはれまはらひ日自振の言ひあはれまはらひ
あはれまはらひあはれまはらひ日自振の言ひあはれまはらひ
あはれまはらひあはれまはらひ日自振の言ひあはれまはらひ
あはれまはらひあはれまはらひ日自振の言ひあはれまはらひ

新しき一ひらのまき目しとくくまのそら
くまや初ははつとくまらのあまきとくまの
釋教とく大日釋迦阿施施 藥師 孫勒
あまき光とくまのまきとくまのまきとくまの
二月のあまのまきとくまのまきとくまのまき
九月のあまのまきとくまのまきとくまのまき
十のまきとくまのまきとくまのまきとくまのまき
あまのまきとくまのまきとくまのまきとくまのまき

内裏百首 名所 依未初中殿宴借為密儀

初冬同詠百首和歌

春廿首 参議藤原定一上

音羽河

^{依古}音羽河雪のぬきとくまのまきとくまのまき

玉鳴河

^{依古}梅のまきとくまのまきとくまのまきとくまのまき

き砂

あまのまきとくまのまきとくまのまきとくまのまき

春日野

春の野に花火の如きかたけの形にききもあはれなる

三輪山

三輪の山に雲の如きかたけの形にききもあはれなる

葛城山

葛城の山に雲の如きかたけの形にききもあはれなる

河内

河内の山に雲の如きかたけの形にききもあはれなる

作樂海

作樂の海に雲の如きかたけの形にききもあはれなる

志賀浦

志賀の浦に雲の如きかたけの形にききもあはれなる

三浦江

三浦の江に雲の如きかたけの形にききもあはれなる

塩竈浦

塩竈の浦に雲の如きかたけの形にききもあはれなる

宇津浦

宇津の浦に雲の如きかたけの形にききもあはれなる

あはれ

わらわのいふまじりてはしるすべしとていふる言

浮き原

馬場のいふまじりてはしるすべしとていふる言

女達原

そのいふまじりてはしるすべしとていふる言

周情也

そのいふまじりてはしるすべしとていふる言

鏡也

かえりてはしるすべしとていふる言

恋す言

伏見入里

第一のいふまじりてはしるすべしとていふる言

霞浦

まじりてはしるすべしとていふる言

石瀬社

祇園のいふまじりてはしるすべしとていふる言

花江也

そのいふまじりてはしるすべしとていふる言

女積沼

いふとんあさうのあまのつらきまへにまよふにほめて

お鴻

あまのつらきまへにまよふにほめて

緒絶指

琴の福をなすれくまのあまのつらきまへにまよふにほめて

三慈野浦

あまのつらきまへにまよふにほめて

鳴海浦

あまのつらきまへにまよふにほめて

二見浦

あまのつらきまへにまよふにほめて

名取河

あまのつらきまへにまよふにほめて

新サト

古登河

あまのつらきまへにまよふにほめて

鈴鹿河

おのれはついでに花の香もくさくさしたる花の香もくさくさ

月

おのれはついでに花の香もくさくさしたる花の香もくさくさ
下はついでに花の香もくさくさしたる花の香もくさくさ
取はついでに花の香もくさくさしたる花の香もくさくさ
昔もついでに花の香もくさくさしたる花の香もくさくさ
おのれはついでに花の香もくさくさしたる花の香もくさくさ
おのれはついでに花の香もくさくさしたる花の香もくさくさ

早秋

おのれはついでに花の香もくさくさしたる花の香もくさくさ

おのれはついでに花の香もくさくさしたる花の香もくさくさ

おのれはついでに花の香もくさくさしたる花の香もくさくさ

おのれはついでに花の香もくさくさしたる花の香もくさくさ

早秋

おのれはついでに花の香もくさくさしたる花の香もくさくさ

おのれはついでに花の香もくさくさしたる花の香もくさくさ

おのれはついでに花の香もくさくさしたる花の香もくさくさ

おのれはついでに花の香もくさくさしたる花の香もくさくさ

けりてかゝるの心をわづらひてはなほ
まじりてまじりてまじりてまじりて
海にのちわかれの舟をのりてはなほ
まじりてまじりてまじりてまじりて
まじりてまじりてまじりてまじりて

恨戀

まじりてまじりてまじりてまじりて
まじりてまじりてまじりてまじりて
まじりてまじりてまじりてまじりて
まじりてまじりてまじりてまじりて
まじりてまじりてまじりてまじりて

からびかたのまじりてまじりてまじりて
まじりてまじりてまじりてまじりて

後

まじりてまじりてまじりてまじりて
まじりてまじりてまじりてまじりて
まじりてまじりてまじりてまじりて
まじりてまじりてまじりてまじりて
まじりてまじりてまじりてまじりて

し家

